

会 議 録

平成 24 年 1 月 8 日調製

審議会等名	平成 23 年度 第 2 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 23 年 12 月 16 日（金） 午後 2 時～午後 4 時
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	宮島泉委員長 捧礼子副委員長 小林修委員 佐藤あゆみ委員 後藤美智子委員 渡邊英美委員 本井晴信委員 名島ルイ委員 米山文子委員 小出和子委員 説明のための職員 金子生涯学習課長 鶴巻生涯学習課長補佐 長谷川文化振興係長 三巻文化振興係主任 指定管理者 太向館長 菊崎責任者 瀧澤副責任者 佐藤副責任者 竹内副責任者
協議題	(1) 平成 23 年度上半期の事業実施状況について (2) その他
生涯学習課長	あいさつ
宮島委員長	(1)「平成 23 年度上半期の事業実施状況について」説明をお願いしたい。
図書館長	(資料 No.1、2 に基づき説明)
宮島委員長	質問・意見などをお願いしたい。
本井委員	ボランティアの方々には普段、本の修理とか書架の整理、返本の手伝いというあたりだと思いが、リサイクル大会も手伝われているのか。そのリサイクルとは、除籍本だけが対象か。
図書館長	リサイクル大会もお手伝いいただいている。除籍資料を提供しているのは「図書館古本リサイクル大会」で、春の児童書リサイクル大会「Book ブックさ・が・そ」の方は、市民から不要になった絵本等を寄贈いただいている。
米山委員	「家族でにっこりおはなし会」を本館の 1 階で行って効果があったとのことだが、栄分館はすまいるランドがあり親子連れが多く、隣が賑やかだったり、子どもが図書館に入ってきて走ったりする。そういうことについて苦情等はあるか。
図書館長	確かに、静かに資料を見ていらっしゃる方から「ちょっとうるさい」と指摘されることは時々ある。もちろん度が過ぎれば、保護者や子ども本人に注意することもあるが、ある程度はご理解いただくようにしている。従来の図書館の「静かに本を読むところ」という考え方とのバランスが難しい。
米山委員	私が小さい頃は「図書館では静かに」と指導されたので、苦情が出るのはやはりご高齢の方からかと思う。栄分館にいて、小さな子が楽しそうに過ごしていたり、子どもコーナーでお母さんが小さな声で本を読んであげていたりすると、私は「いいな」と思うが、おじいちゃんやおばあちゃんたちは「図書館では静かに」と言うのだろうか心配になる。他の委員さん方はどうすべきだと思われるか。
宮島委員長	公共の場所というのは小さい子どもにとって、その年齢なりに教えてあげるべきこ

	とがあるのではないか。親とか周りの大人が公共のマナーを教え、育てる場所。ただ単に「静かに」でなく、なぜ静かにしなければいけないのかを、その年齢なりに説明してあげられるといいと思う。
後藤委員	保育所が子どもをクラス単位で連れて行くのは、それを教えたいという目的もある。しかし、たくさん本があったり、自分が知っている本を見つけたりすると、どうしてもつい声が出てしまう。せっかく来て、楽しい絵本を見つけて、子どもが「わっすごい」と驚いているのに、静かにさせるのもどうかと思う。その辺の加減がいつも難しいと思っている。
米山委員	私は地声が大きいので、夢中になって読んでいると、「声がでかいよ」と子どもから注意されたりする。でも、図書館でいい本を見つけると、どうしても読んであげなくなる時がある。読んであげている親子連れを見ると、「いいな」とすごく思う。
小出委員	自分が子どもや孫を持っている人はそう思うだろうが、子どもさんがいない人、そういう経験のない人は、やはり「うるさい」と思うのではないかな。いろいろな方がいるので、「こういう公共の場では、なるべく騒いだりせず静かにしましょう」と一言添える程度にして、あとはそれぞれの受け取り方で仕方がないのではないかな。本を読んであげる人も、ちょっと声を抑えて読むとか。自分がその立場になったら、そうやって気をつけるしかないのではないかなと思う。
本井委員	子どもが対象の事業を本館で行う場合、場所は大体決まっているのか。そのための部屋を新たに見つけるのは難しいし、一時的に空けるのも簡単ではないだろうから、決まっているのならそれでいいと思う。 新潟県立図書館の場合は、小さな部屋を児童閲覧室として利用し、そこで読み聞かせをやったり、母親も読んでやったりしているが、確かにうるさい。一般の閲覧室と続いているので、声が響いてくる。しかし、そういうコーナーがあってもいいのではないかな。親の常識に頼ることにはなる。
名島委員	私は子どもたちに、「図書館に行けば楽しい」という気持ちで来てもらいたいと思う。そして、子どもと大人のコーナーは分かれるのだから、子どもの方では本当に楽しくすごしてもらいたい。読み聞かせも、お母さんたちが読んであげたいなら、小さい声で読んであげるのはいいと思う。いい本がそろえてあるから、本の楽しさというものを感じてもらえたらと思う。堅苦しさではなく、「図書館に来れば楽しい」と感じてもらえる雰囲気にしてもらいたいと思う。
宮島委員長	随分意見が出た。他に聞いてみたいこと、「いいことをやっているな」という意見など、どんどん出していただけたらと思う。
佐藤委員	事業報告の中で、今年から始めたという「夏休み調べる学習講座」というのが、学校にとってはとてもありがたいと思った。これは学校にも周知をしたのか。
瀧澤副責任者	「広報さんじょう」などを通して、一般市民向けにお知らせを出した。今回は学校宛ての案内はしてない。
佐藤委員	夏休み明けに、三条市の小・中学校の科学研究発表会があった。小学校高学年などになると、発表するために自分で調べ、夏休みの課題としてやってくる子もいる。学校図書館にない本が市立図書館にはあると思うので、その際それを利用できれば、子

	<p>どもたちにとってすごく有効に使えるそうだった。7月23日だとちょうど夏休みが始まる頃なので、夏休み期間中に2~3回やってもらえると、子どもたちも計画的に参加できるのでありがたいだろうと思った。</p>
図書館長	<p>今回は1回しか企画しなかったし、あまり人数が多くなってもと考えて、館内の掲示や「広報さんじょう」での広報のみにしたが、ご指摘のとおり回数を増やせたら、学校にもお知らせして募集を広めることは可能だと思う。来年度検討したい。</p>
本井委員	<p>今年度の重点事業だから、子どもたちを対象としたいろいろな事業が目白押しのようにあり、大変努力されていると思う。それにしても、この市ですら30人を上回る人数を集めるのは、大人を混ぜてもなかなか難しいと思う。これは他の市町村でも同じで、なかなか30人を超すのは難しい。関心がないわけではないだろうが、いろいろな理由でこない。そのような人たちに対し「何とか関心を持ってもらいたい」という一生懸命な気持ちが、よく伝わってくる感じがする。</p> <p>子どもたちについては、こうしているいろいろなことができ、面白くていいと思うのだが、では、高齢者たちはどうするのか。例えば何かの研究会とか、いろいろな会が定期団体（読書会）として用意されていて、「そこにおいでください」と言うこともできるが、「ちょっと関心があるのぞいてみたいだけ」という程度の人には、なかなか敷居が高くて簡単には行けない。せっかく十数の会があるわけだから、せめて半年に一回でも、会員だけでなく一般の方にも扉を開いた集まりや、レクチャーの機会をつくる努力ができないものかと思う。どの会も多分、10人あるいは20人の固定的な人たちが一生懸命やっているのだろうと思うが、どこの市町村でも大体、高齢化が悩みの種である。若い人が入ってこない。それは、今のやり方をずっとやっているからそうなので、もう少し踏み出すやり方を工夫してもらえれば、道具立てやお金がそれほどなくても、まだ埋もれている人材が十分寄ってこられる、親しみが生まれるのではないかという気がする。ぜひそのあたりのバックアップをやってほしい。</p>
図書館長	<p>実例として、読書会の三条良寛会では、公開講座や語りべを招いた催しなどを年に1~2度行っており、それにはたくさん人が集まる。しかし、会への入会には結びついていないようだ。どの読書会も若い方が入らず高齢化が進んでおり、皆さん同じ悩みを持っておられる。図書館としても起爆剤になるような知恵が出ればいいのだが、会員募集のポスター作りのお手伝いぐらいしかできていない。子ども向けの事業ももちろん大事な柱だが、高齢の方々に図書館へ足を向けていただくきっかけづくりも怠ってはいけないので、引き続き考えていきたい。</p>
捧副委員長	<p>高井茂先生の論語の講演会は、図書館の事業ではなかったか。</p>
図書館長	<p>「論語朴(ほう)の会」の催しだったが、この会は図書館読書会「論語を読み習う会」としても活動されているので、図書館内で開催される場合は図書館行事となる。</p>
宮島委員長	<p>それぞれの読書会がどれだけ望んでいるかはわからないが、例えば1年に一回ぐらい、活動の状況をお互い聞き合ったり、会員数が増えないといった問題点を話し合うなど、交流をする機会はないのだろうか。</p>
図書館長	<p>「代表者連絡会」を以前催したことがあるが、こちらの進行力不足もあってあまり実のある意見交換とならず、その後は開催していない。また考えたい。</p>

宮島委員長	図書館に籍を置き、同じ文化的意味合いで活動している団体同士だから、本井委員さんが言われたように、「外に向けた公開講座のようなものをどんどんやっていこう」といった話ができる面白いのではないかと思った。
本井委員	もう一つ。ボランティアの人たちの日常の仕事はイメージできたし、子どもたち対象の行事の手伝い等もあることはわかったが、せっかく図書館へボランティアに来ているのだから、裏方ならではのメリット、「ああ、いいことを聞いた」といったお土産が得られると、長続きするだろうし、他の人たちへの誘い水にもなると思う。一般利用者たちと差を付けるということではなく、普段なかなか見られない貴重な資料を見られる、触れるぐらいでいい。県立図書館にはそういう人たちのための、名目は研修会だと思うが、2ヵ月か3ヵ月に一回ぐらい集まって、絵図とか和綴じ本など、館内の郷土資料や一般資料の中の、貴重な歴史的資料に触れてもらっている。それを行うことによって、それらの資料を紹介できる窓口をつくっていかないと、職員だけではなかなか気がまわらないし、日々の業務に追われてどんどん先送りになってしまい、もったいない。いい方法であるかどうかは別として、ボランティアの人たちは、それらについてわかってもらえる、興味を持ってもらえる人たちだろうと思うので、そういうことに利用してあげるのもいいと思う。
宮島委員長	貴重なご意見だった。他に何かあればお願いしたい。
小出委員	疑問点だが、今日の資料No.1の「登録者数」は、半年で3万人以上登録したということか。
図書館長	半年間に登録した方ではなく、この半年間で区切って見た、全登録者数である。
宮島委員長	図書館のカードを持っている人のことである。
小出委員	なるほど。半年で3万人登録すると、すぐ10万人になってしまうと思った。
本井委員	「まだ7万人が登録していない」ということである。
小出委員	前年と比較してあるが、「現在の数字」という出し方でいいのではないかと思った。貸出数などは比較してもいいが、登録者数を比較するのはどういうことなのかと思った。
図書館長	この数字も、「前年に比べ減っていたら課題がある」という大事なものである。分母として考えるべき人口を示せていないのは恐縮である。
捧副委員長	図書館での登録更新は3年ごとだが、住基カードを利用している人は10年間更新の必要がなく、ずっと登録されているということか。
図書館長	住基カードを使用されている方は、住基カードの登録によりその方の確認ができていくということなので、図書館としての確認は必要としていない。図書館のカードでご利用の方については、現在のところ3年を区切りにし、その方の登録内容に変更がないかどうかを確認させていただいている。
宮島委員長	私たちは本の読み聞かせサークルに所属しているので、団体貸出をととても便利に使わせてもらっているが、その数も今日の資料の「貸出数」の中に入っているのか。
図書館長	資料の「貸出数」は個人貸出のもので、団体貸出は入っていない。
宮島委員長	私たちが子どもたちに読んであげる目的で借りているわけだが、水増しのような形になっているなら申しわけないと思った。

図書館長	ボランティアグループの方も団体貸出だが、毎月定期的に保育所や学校に持ち込んでいる団体貸出もあり、そちらの方はわりあい固定的な数字が毎月加算されていく。一口に団体貸出といっても、性質の違う数字もある。
宮島委員長	小林委員さん、よろしければ、今までのことに関して何かないか。
小林委員	<p>一つは、最初に話の出た、図書館が団らんの場になっていくだろうということについてである。私どもの裏館小学校は、今校舎の建築中で、来年は学校図書館を地域の方に開放していこうと思っている。しかし、今日話を聞いて、「大変だな」という感じを持っている。今後、学校の教室棟以外は、コンピュータールームやいろいろな部屋を含め、すべて地域に開いていきたいというのが私の願いなのだが、もう少し勉強しなければと思った。</p> <p>それからもう一つ、子どもはいつも市立図書館から読み聞かせに来ていただき助かっている。同じようにどこの学校でも、地域の方や保護者ボランティアの方に入ってもらってとても助かっている。また、この春からは図書館から各学校に、行事の情報などをメールで流してもらっていて、それも役立っている。ただ、私の学校では学校便りにそれらの情報を載せられないこともあった。しかし、私の前任者が12月から月1回、図書館で「アキじいのおはなしド～ン」という新しいおはなし会を1人で立ち上げられるというので、学校便りで「今週の土曜日からやります。ぜひ親子で聞かに来てくださいな」と情報を流したら、30人ほど集まった。やはり紹介すると大きいなと思った。本井委員さんからご指摘があった、きっかけとなるものをみんなで考えたいと感じた。</p> <p>それからもう1点。私もこの委員や今の立場になったおかげで、阿刀田高さんを招くことができたり、県の小学校の図書館協議会60周年を記念して、新潟県出身の絵本イラストレーター黒井健さんの講演会を聞く機会もあった。そういう一流の方のお話を聞くと、得るものがとても多い。そういう人の広がりの中で知識になったり興味を呼ぶものがいっぱいある。大人同士のつながり、先ほど出た読書会同士、おはなし会同士のつながりがうまくいくと、知恵になったり、もっと大きな力になっていく気がする。どうしたらうまくいくのかと考えている。何かいい方法があったら、また館長さんに話したり、皆さんに言いたいと思う。</p>
宮島委員長	幾つも大変良い意見が聞けたように思う。渡邊委員さんはどうか。
渡邊委員	<p>私は中学生の子どもの親なので、やはり「夏休み調べる学習講座」というのがいいと思った。中学生はとにかく本を読まないで、「朝読書」があっても漫画本ばかりを読んでいる。中学生も本に引きつけるような施策が何かないかなと思う。図書館はすでに、入口近くにティーンズ向けの本が飾ってあったりして、「ああ、いいな」と思う。その中に借りたい本があったら2週間くらい借りなさいと子どもに言うのだが、遠いのでなかなか来られない。せっかくいい企画の展示があっても、足がなくて来られないというのが一つ。講座を夏休み中にもう何回かしてほしいという意見が出ていたが、そのとおりだと思ったし、もう少し踏み込んだものができる、興味を持ってくれるのではないかなと思った。</p> <p>もう一つ、おはなしパレットのおはなし会は、春より夏が参加者が増えている。例年こうして増えていっているのか。口コミで良さが広がって増えてきたのだろうか。</p>

図書館長	パレットのおはなし会は毎年行われていて、今年に限って見ると増えている形だが、各年で見るとけっこう波がある。開催日のタイミングというか、ゴールデンウィークの時期なども、連休中がいいのか明けの方がいいのか、毎回話し合っていて決めているが、来やすい日に当たらないと、あまり集まらない時もある。
後藤委員	パレットのおはなし会は、何歳ぐらいの子どもが対象なのか。
宮島委員長	私は一度見せていただいたことがあるが、幼児と親子というのが多いだろうか。
図書館長	私も時々様子を覗かせてもらっているが、小さいお子さんは真ん中から前寄りに座り、後ろの方は小学生が多いと思う。中学生はさすがに来ないようだが、小学生の高学年の子どもが来てくれるので、バランスがいいという印象を受けることが多い。
後藤委員	お話の内容も、それに合わせているのだろうか。
図書館長	あらかじめ相談して決めていただいている。
名島委員	下田地区でも、図書館でやる場合は小さいお子さんが中心で、人数も少なく、あまり要望はないのだが、喜んでもらえるのでやっている。
後藤委員	学校や幼稚園に来ていただく場合は、年齢層は大体決まっており、それぞれの部屋に順番に入って読み聞かせをしていただいているが、聞き取る力にはずいぶん差があると思う。なので、このように様々な年齢層が来ている会は、内容を決めるのも難しいだろうと思った。
名島委員	学校だと学年ごとに、それぞれの子どもたちに合わせたお話や絵本をやっているが、集まってくるのを待つ会というのは、下田ではちょっと無理だという感じがする。やってはいるが、集まってくる人数は少ない。
宮島委員長	それでは、上半期の事業実施状況についての質問・意見は、これで終わりにする。では、(2)の「その他」に移ってほしい。
図書館長	(「その他」の1つ目として、新車両を導入する24年度の自動車文庫について説明)
宮島委員長	自動車文庫の運行については、もちろん周知・告知をしていて、ステーション付近の方たちは巡回時間等をよく知っていると思ってよいのか。
図書館長	毎年度運行開始前に、「広報さんじょう」に「今年度はこういうスケジュールで回ります」というお知らせを載せており、市民に知っていただいているという前提でやっている。
宮島委員長	音楽とかは鳴るのか。
図書館長	ステーションの近くに行くと、鳴らしている。
名島委員	高齢者施設では、利用したくても自動車の所まで行くのが大変な人が多いという話があったが、そういう施設には団体貸出をするのはどうなのか。
竹内副責任者	例えば「こころつくし」は、団体貸出も自動車文庫も両方行っている。
図書館長	それぞれの施設の事情、ご希望を伺い、「団体貸出なら」と言っていただければ、もちろんそちらをご利用いただくようにしている。
本井委員	各ステーションに月に2回ずつといっても、出かける車は1台だから、職員も大変だ。通算するとほとんど毎週、1日おきぐらいに出ている、これは管理者経験者としては、事故に遭わないか心配で仕方ないと思う。確かにサービスもすごく大事だし、喜ばれるが、事故に巻き込まれないよう、ぜひ細心の注意を払っていただきたいと思

	う。他人事ながら本当に心配だ。
図書館長	幸い三条では、今のところ事故は起きていない。運転はシルバー人材センターにお願いしているが、大変優秀だと思う。
渡邊委員	資料の表の数字は、利用した人数か。
図書館長	自動車文庫が訪問する日程である。例えば大島児童館の場合、4月は20日、5月は18日、6月は1日と15日に訪問するということである。
渡邊委員	先ほどの事業報告の資料の一番下が自動車文庫だと思うが、すごく冊数が増えているし、待っている方が多いのだなと思って見ている。本館の利用は昨年度と比べマイナスだが、自動車文庫だけは伸びている。
竹内副責任者	ステーションが増えたためである。新しいところは子どもたちがすごく喜んでくれて利用数が多くなり、9月以降の伸びが大きくなった。今回は9月末までの報告だが、11月までだと、もっと伸びが大きくなる。
渡邊委員	大島小学校の子どもたちは、学校図書館もあるのだが、自動車文庫もよく使っている。喜んで借りている。ありがたいな、頑張ってくださいと思う。
宮島委員長	昨年に比べ、ステーションも増えたが、1回あたりの貸出数も増えている。素晴らしい。事故に気をつけて頑張ってください。
米山委員	H地区は「栄中央保育所と栄中央小学校」がある。中央保育所が新しくできたので4月から開始になったのだと思うが、すぐ隣だ。そこに12時と2時半に行くのでは大変だなと思った。保育園児と小学生が借りるものは違うのだろうし、こうするしかないのだろうか。道路を挟んで本当にすぐ隣なので、1回で何とかならないものなのかと、個人的に思った。
竹内副責任者	中央保育所を始めるにあたり、時間の調整をいろいろ検討したが、保育所の場合はお昼寝の時間があり、逆に学校の方は昼休みか放課後に行かなければならないので、結果こういう時間になった。
宮島委員長	栄分館でちょっと時間待ちをすとか、そういうことはしているのか。
竹内副責任者	以前は栄北小と中央小だけだったので、時間調整があったが、今は中央保育所から栄北小に行き、また中央小に戻ってくるので、時間はちょうどよくなっている。
図書館長	運行コストとしては、本当はありがたい形ではないのだが、訪問先の事情を優先しているので、致し方ないと思っている。
宮島委員長	いちいち本館まで戻ってきて、事務処理をして、また出かけることもあるのか。
竹内副責任者	B地区の第1、第3金曜日は戻っている。午前月に月ヶ岡特別支援学校に行き、一度本館に戻り、また午後出て、夕方まで回っている。
宮島委員長	自動車文庫については、私たちはこうして話を聞いて「ああ、こういうこともあって大変なんだな」とわかるが、一般にはあまり知られていないので、こういう動きを何とか多くの皆さんに知ってほしいと、本当に思う。
図書館長	知られていないという今のご意見が、来年度の運行にとってもネックになると思う。せつかく新しい車になるので、もう一度皆さんに知っていただかなければならない。そのための広報等をして、「近くに来るなら利用してみよう」と思っていたが必要がある。ステーションを増やすのは簡単ではないが、決まっているステーション

	の近くにお住いの方は、そこが学校・保育所であっても一般の方も来てくださる、そういうお誘いが上手にできればと思う。
米山委員	自治会の回覧板で回す。そうすると、知らない人もいるかもしれないので、「大人も借りていいんだよ」ということが伝わる。
小出委員	私は大面小の地域だが、学校のお便りが回ってくるので、そこに載せるのもいい。
図書館長	先ほど小林委員さんがおっしゃってくださったように、毎月学校に図書館の情報をお送りし、可能なスペースに載せていただいている。それを活用するようにしたい。学校便りは子どもさんがあまり見なくても、保護者は見られると伺っているので、一般の方への広報にもなると思う。
渡邊委員	子どもが親に出してくれればいいのであるが。
小林委員	<p>年度当初の校長会に館長さんにおいでいただいて、今日の話をご紹介いただきたいと思うし、私の方でも、毎月ある校長会で話をするようにするが、ある程度の規模の学校の場合はどうしたものかなと思っている。子どもたちも春の4月、5月あたりは借りるが、6月以降遊びが活発になると、担当の職員が「今日は自動車文庫が来ますよ」と言ってもてんやわんやで、どうしようもなくなるのではないかと思う。月岡小とか長沢小、保内小、栄中央小あたりの子どもの数になると、時間を決めて「今行きなさい」とか「行っちゃ駄目」とか仕切らなければならず、大変だろう。だから、学校の規模にもよって、子どもたちをどう集めるか、という問題が出る気がする。</p> <p>地域については、回覧板を回したり、学校のお便りに添えるという話が出たが、言葉で言うほどはなかなか効果が上がらない。学校現場にいて、「学校便りなんて読んでもらえていない」と意識している立場で言うと、どんなに素晴らしい自動車文庫でも、人に集まってもらうというのは、考えるほど楽なものではないと思う。学校にとっても、来てもらうのはいいのだけど、その後どう維持していったらいいのかが大変である。どこかでもっと何かを変えていかないと、いいことがいいことになっていかない。新しい自動車を入れる機会だということで、学校現場の意向を聞いてもらうのを含めて、何か工夫をしていかないと、ただ案内を出したり場所を提供するだけでは、利用は増えていかない気がする。その辺が何か欠けていないかという気がしている。</p>
宮島委員長	貴重なご意見だった。
渡邊委員	新車になると、絵とかロゴも新しくなるのか。デザインやマークでPRすると、大変になると思うが、皆さんに知ってもらえる手だてになるかなと思った。
宮島委員長	「あ、図書館の車だ。自動車文庫だ」と、パッと見てわかるといい。
金子生涯学習課長	今、自動車文庫の業者と担当者で、どういう構造にするかという打ち合わせをしているが、カラーリングの方は、デザイン専門の方の知恵を借りながら進めていく。
宮島委員長	楽しみにしている。では、次の話題をお願いします。
図書館長	(古文書の複製の取り組みについて説明。特に、差別問題に結びつく記載のある歴史資料の扱いについて委員の意見を求める)
宮島委員長	本井委員さん、ご意見をお願いしたい。
本井委員	難しい問題だ。基本的には、ある程度時間がたったもの、当事者も誰もいないぐらい時間が経ったものについては、制限なく閲覧の対象にする。要するに「資料として、

	<p>歴史の事実として、隔てなく閲覧の対象にする」という大原則は、立てておいたほうがいいと思う。どうしても、地元ならではの、当事者に近いところの関わりから見て、大きな問題だというのはあると思うので、一律に「時間が経ったからいい」と割り切るわけにはいかないだろうと思うが、基本的な考え方をまず館としてきちんと持つ。スタンスを持っているということが、まず第一ではないなと思う。</p> <p>「基本的な考え方をまず固める」ということから、利用への道が開けていくだろうと思う。「100年経ったからいい」というわけではない。その辺がなかなか難しい。人によっては、どうしてもすぐ現実問題等と絡み合わせたがる人がいて、個々の対応に終始せざるを得ないところも出てくるかもしれないが、できるだけ全体に位置づける、全体から見るというスタンス・意識を持っていただきたいと思う。</p>
図書館長	<p>大変参考になった。では、公開はしたとして、図書館では資料の複製・複写ができることになっているが、その辺はいかがだろうか。公開をした以上、複写も構わないということになるか。</p>
本井委員	<p>そこはやはり、制約しないと駄目だと思う。「ここで見るのは構いません。ただしこういう問題点が絡んでいるので、問題が解決するまでは、個人的とはいっても、コピーはご容赦願います」といった、そういう制約がどうしても必要ではないかと思う。複写はあくまで館と個人の約束だが、それが確実に守られるかどうかはわからない。コピーというのは必ず一人歩きする。その辺はちょっと恐れたほうがいい。</p>
図書館長	<p>「貴重資料」という考え方について、館では今のところ基準がしっかりできていないので、検討しているところである。いわゆる古文書のほか、明治から戦後期までの、いわば代替の効かない資料。恐らく1点、2点ぐらいしかないだろう、これが失われるともう入手できないだろう、といった資料を、基本的に貴重資料と考え、一般資料と同じ自由な閲覧ではなく、申請していただいて別室で見えていただくという扱いにしようと考えている。その辺について、「こういうものについては貴重資料と考えたほうがいい」というようなヒントがあれば、幾つでもお聞かせいただきたい。</p>
本井委員	<p>今は現役ではないので、具体的なことをどう考えたらいいかわからないところもあるが、今館長が言ったように、代わりのない唯一的な「一点もの」と考えていいのではないか。それは古いものばかりでなく、今現在のものであっても、そういう性格のものは必ず幾つかあるわけで、時代には関係なく考えていいと思う。とにかくこの図書館で、三条の町として保存し、次の世代に引き継いでいかなければ駄目だと積極的に考えられる、そして代替の効かないものについては、保存を第一に考えていただきたいと思うし、利用については、コピーでも写真でも、どういう形でも構わないので、生の姿がわかる複製物で対応することをまず優先していただく。それにより、当面必要とされることは足りるのではないかと思う。どうしても現物を直に見なければ駄目だとか、触ってみなければ駄目だという場合も時にはあるので、そういう時だけ特別に閲覧対象にしてよかろうと思うが、積極的に複製を作っていくといいと思う。例えば古文書を、普通の電子コピーの光に当てていいのかと、それを心配する人もいるけれども、全然心配ない。100回も1,000回もやれば、いくら和紙が丈夫だって持ち堪えられないかもしれないが、こういう目的のためにたまに1回コピーするぐらい、全然問題ない。だから安心して複写を進めて結構だと思う。ただ、一般の閲覧の方に「コ</p>

	<p>ピー自由です」というわけにはいかないなので、コピーしたものを閲覧してもらい、個人的に欲しい人は、そのコピーをまたコピーしていただくということで、十分用事は足りていくと思う。「何が代替の効かない大切なものか」というのは、それぞれの館なり、あるいは地域なりで見つけ出していきたいと思う。基準というものは、簡単には設けにくいのである。</p>
宮島委員長	<p>それでは、次の報告をお願いしたい。</p>
図書館長	<p>(“三条の記憶”事業の企画について説明)</p>
米山委員	<p>“三条の記憶”学校アンケートは学校に行くもので、“三条の記憶”アンケートの方は、個人対象ということでよいか。</p>
図書館長	<p>はい。後者は、図書館・資料館その他に置いて記入をお願いしている。</p>
米山委員	<p>“三条の記憶”と言いながら、「あなたの育ったところ」として三条市外も記入できるが、それでよいのか。嫁に来た者の場合、育った場所は三条と全く関係がない。</p>
図書館長	<p>基本として「三条で育った方」に記入をお願いしているつもり。ただ、昨年度のアンケートの経験で、途中で転校をした、引っ越しをされた方もいらっしゃった。そういう方が書いてくださった場合のことを考えた。</p>
米山委員	<p>これは主に小学校の記憶か。中学校、高校はいけないのか。</p>
図書館長	<p>主に小・中学校を念頭に置いているが、もちろん高校のことを書いてくださっても、それが興味深い内容であれば、取り上げさせていただくつもりでいる。</p>
本井委員	<p>おとしだったか、新潟市歴史博物館「みなとぴあ」でも、こういうテーマで展示が行われたし、事前から展示期間中にかけてやはりアンケートを取って、いろいろな過去の思い出を寄せてもらい、かなりの成果を挙げていた。先行事例として、非常に役に立つのかなと思う。</p>
図書館長	<p>展示ということでは、今は昭和史回顧ブームで、映画もあったし、全国あちこちで「懐かしの昭和」的な展示が行われているようだ。</p> <p>それに関連して、一つご紹介しておきたい。新潟県立歴史博物館が昨年位から巡回展示をされている「GHQの一兵士が見た新潟」というパネル展を三条でも行うことになった。1月前半に2階展示ホールでの開催を予定している。戦後進駐軍として来たイングリッシュという兵士が新潟でたくさんの写真を撮ったが、三条、加茂、弥彦と大体の場所はわかっても、具体的に何が写っているのか今となってはわからないものもあり、展示すると同時に、見に来られた方から情報をもらいたいという、“三条の記憶”とも結びつく企画なので、一緒にやらせていただくことになった。この機会にご紹介させていただく。</p>
宮島委員長	<p>今日議題に上ったものについて、他に何かないか。</p>
米山委員	<p>先ほどの小林委員さんのご指摘に付け足すようだが、この“三条の記憶”学校アンケートを学校に送っても、これから3学期や、学年末の忙しい時期になるので、多分学校現場では大変お困りになる気がする。</p>
図書館長	<p>この学校アンケートは、9月をお願いしたものである。</p>
米山委員	<p>では、もう回収してあるのか。</p>

図書館長	10月中に回答いただけるようお願いしたので、ほぼお返しいただいた。
米山委員	先生方に実際に「これを貸してください」というのも、正直すごく大変なことではないかと思う。もう送ってしまったのなら仕方がないが、学校に何かするときには、例えば「いざとなったらボランティアで探しにいきます」というような配慮が、ある程度必要かと思う。先ほどの自動車文庫のこともそうだが、図書館は図書館で本当に忙しいと思うが、それと同じように、学校は学校で本当に毎日、それ特有の忙しさがあるので、そのあたりについて配慮すると、学校の方からもいろいろないいもの集まるのかな、と思った。
図書館長	ご指摘ありがたく伺った。私どもなりに、最初は学校に電話をし、まず聞き取り調査をさせていただこうという案も出たが、先生方も日頃把握できていないところへ急に電話がきてもやはりご迷惑だろうと考え、まずは簡単に書いていただけるアンケートをお願いすることにした。例えば裏館小や四日町小には資料室がおりだが、「うちには資料室がありますよ」「こんなものがありますよ」ということをまずお寄せいただければ、あらためて学校に連絡させていただき、「では、恐れ入りますがちょっと見せていただけませんか。調査をさせていただきませんか」とご相談させていただく。そういう調査の前提として、まず学校の状況をお教えいただけないかということで、このアンケートを出させていただいたという経緯である。
米山委員	意図はわかった。
図書館長	ご指摘のとおり、学校の先生方も日々、本当にお忙しいので、大変心苦しくはあったのだが、“三条の記憶”の趣旨をぜひご理解いただき、私たちの町・村の身近な歴史を遺していくために、少しでもご協力をいただければという思いで、お願いさせていただいた。
宮島委員長	その他、意見はどうか。
図書館長	(「国定勇人三条市長のおすすめ本」について説明)
宮島委員長	これは中学生に配られたのか。うちの子ももらってきた。すごくいい企画だなと思いい、一保護者として喜んでいる。 では、今日の議題はこれですべて出たようで、大変熱のこもった会になった。これをもって第2回図書館協議会を終了する。